

Ns LIFE

那須塩原市移住定住サポートブック



8
8

INTERVIEW



Ns LIFE

→ 那須塩原市への移住定住に関するお問い合わせ

那須塩原市役所
企画部シティプロモーション課

〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108番地2
TEL.0287-62-7128 / FAX.0287-62-7220

✉ promotion@city.nasushiobara.lg.jp
🌐 <http://www.city.nasushiobara.lg.jp>



facebook



HP

Printed in Japan

Copyright © Nasushiobara City. All rights reserved.



人生を
ジブンらしく
豊かに暮らす



モノが溢れていなくても、

何か“満たされている”と感じる那須塩原の暮らし。

好きなことを仕事にしたり、

自分のペースで時間を使ったり。

都会とは違う価値を見出し、

より自分らしく暮らす人たちが集まり、

まちが活気に満ちています。

そんな暮らしを送る8人からのメッセージ。

可能性は「∞」。

Ns LIFE

このまちのエールが、夢に向かう力になる。

INTERVIEW



1

東京との2拠点活動も可能なまち

松本 加奈子 さん

KANAKO MATSUMOTO



2

夢を実現できるまち

菊池 太輔 さん

DAISUKE KIKUCHI



3

“ヒュッゲ”な暮らしを満喫できるまち

柳田 優希 さん

YUKI YANAGIDA



4

暮らしを楽しみながら仕事ができるまち

樋爪 克至 さん

KATSUSHI HIZUME

那須塩原に暮らす人々のインタビューには、あなたにとっての「人生をジブンらしく、豊かに暮らす」こと、そして、暮らしについて考えるきっかけやヒントがたくさん詰まっています。自分らしい暮らしについて一緒に考えてみませんか？



5

暮らしが中心にあるまち

山谷 久 さん

HISASHI YAMAYA



6

自分に戻れるまち

渡邊 智美 さん

TOMOMI WATANABE



7

夢のために一歩踏み出せるまち

平山 翔 さん

SHO HIRAYAMA



8

お互いに助け合い応援できるまち

津久井 勝一 さん

SHOICHI TSUKUI

KANAKO MATSUMOTO

松本 加奈子

SPECIAL INTERVIEW



那須塩原市出身。高校生のときに東京の大手芸能プロダクションに入り女優やモデルとして活躍。ご主人を2013年に癌で亡くし、ひとりで姉妹を育てながら歌っているママさんシンガーソングライター。

東京との2拠点活動も可能なまち

戻ってこられる場所

2拠点での活動も那須塩原で暮らす魅力

小さい頃から歌ったり踊ったりするのが好きで、妹たちや近所の子たちを集めて歌を歌ったり、お芝居をしたりしました。

中学生の頃に芸能界に憧れ、高校生の頃にはいろいろなオーディションを受けて、芸能プロダクションに入りました。高校3年生の時には新幹線で東京に通いながら演技レッスンを受け、土台を作ってから上京しました。東京にいと頑張っていて、つらくなることもありましたが、そんなときに帰って来やすいというか、帰ってこれちゃうまち、というのも、那須塩原に生まれて育てよかったと感じたことです。

実はこれからまた月に1回くらい東京に出て、頑張っていきたくて思っているんです。仕事をする上でも環境は大切だと思っています。東京まで通えちゃうからこそ、2拠点で活動ができ、自分にとって理想的な形で仕事ができると思っています。



那須塩原での再スタート

理想的な環境で子育てができる充実感

主人に癌が見つかったから、療養のために戻ってきました。その8ヶ月後に主人は他界。今度は子ども達が笑顔になるために歌を歌おうと、再スタートという形で始めさせていただきました。ここは東京と違って、なんと言っても自然豊かな中で、のびのびと子育てができることも魅力的です。河川敷公園で子ども達を遊ばせて、川の流れの音を聞きながら、那珂川沿いを子ども達と散歩するのが私は好きで、良く行くんです。緑の多い中で子育てをしたかったので、とても満足しています。

聞いてくれる人を幸せにして

地域へ、社会へ貢献できる仕事

私の場合は子育てがメインなんですよね。そのプラスアルファの中で曲作りをしたり、歌を歌ったり、社会貢献というほどではないのですが、今まで経験してきたことの中で、たくさんの人が笑顔になったり喜んでくれることをしたいと思っています。

お祭りやイベントで歌う度に、大きな喜びや達成感を感じています。これからも地元を盛り上げる活動を、がんばりたいと思っています。



茶房花苑 那須塩原市青木 224-2 TEL. 0287-74-6479

インタビューの場所としてお借りしたのが、松本さんもよく行くという「茶房花苑」さん。

DAISUKE KIKUCHI

菊池 太輔

SPECIAL INTERVIEW



那須塩原市出身。工業系の大学を卒業後、埼玉の車関係の会社に勤務。様々なタイミングが重なり、実家のいちご農家にUターン。「とちおとめ」の他に、「なつおとめ」の栽培に挑戦。那須塩原市4Hクラブ(若手農業者組織)の部長を務めている。

夢を実現できるまち

那須塩原市に戻ったのは「なつおとめ」への挑戦

大学を卒業してすぐに埼玉県の人に就職しました。自動車関係の仕事で、設計、開発、品質管理など、主にデスクワークの仕事をして5年間やりました。

妻とは同じ会社で知り合いました。農家の長男であることは伝えてあり、いつかは戻るとも理解してもらっていたと思います。

戻ってきた理由の一つは、「なつおとめ」が開発されたことです。冬のいちごだけを作っている農家さんはたくさんいらっしゃるのですが、夏にいちごがないので、需要はたくさんあるだろうって以前から思っていたんです。

「なつおとめ」が開発されて、父が作ってみようかと思っているという話を聞いて、それだったらやりがいがある、自分でもやってみようと思ったんです。

ちょうど結婚も重なり、このまま埼玉で子育てをしていくのって大変だなと思ったんです。住んでいたところでは、幼稚園や保育園に入れるのも大変で抽選券をもらうのにも24時間並ばなくちゃならなかったり、私としては一生そこで暮らすんだったら、「なつおとめ」という面白い事業もできるし、いろいろなタイミングが重なって戻ってくる決心をしたんです。



自分が作った野菜やお米で自給自足 庭ではゴルフもできる贅沢な生活

仕事で行き詰まったときでも、外に出て風景を眺めるだけでリフレッシュできます。昔から好きな星空も、このあたりはたくさん住宅があるわけではないので、流星群も本当に星が空から降ってくるように見えて、埼玉からきた妻も星がとても綺麗だと言っています。

那須塩原市は東京からも近いし、土地もたくさんあるし、平地から山間まであるのでとてもいいところです。今、若手の農業ってブームで、都会から帰って来て新規参入する人もたくさんいらっしゃるし、都会に疲れた人や、自分で美味しい野菜を作って食べたいという人にも農業はオススメですと思っています。

私の趣味はゴルフなのですが、那須塩原周辺のコースは自然も多く、午前中だけとか午後だけとかだとリーズナブルだし、スコアというより気晴らしに運動にもなります。後、実は自分の庭でもゴルフの練習ができちゃうんです。那須塩原ならではの贅沢な生活だと思っています。

夢を応援してくれるまち

那須塩原市は、新幹線で東京から70分、国道4号線、東北道のインターが2つあることから、交通の便は良いです。また観光地「那須・塩原」の玄関口でもあり、起業するにも好立地だと思います。そして、自然が多く、四季をより体感しやすい環境にあると思います。夢が実現できる可能性があるまち。そして、地域から応援されているという実感が持てるまち、それが那須塩原の魅力だと思います。



菊池いちご園 那須塩原市上横林 347 TEL. 090-1450-5994

インタビューに答えていただいた菊池さんが運営しているいちご農園。那須塩原の自然の中でいちごを育てています。

YUKI YANAGIDA

柳田 優希

SPECIAL INTERVIEW



福島県郡山市出身、妻の実家が那須塩原市。新幹線通勤をしている会社員。暮らしの中にアウトドアを取り入れ、多数のメディア等に掲載される。2年前に始めたInstagram。フォロワーは約1.5万人。(2018年10月時点)

“ヒュッゲ”な暮らしを満喫できるまち

自然に囲まれた生活がしたい
自分のライフスタイルに合わせた家づくり
生活自体が癒しの空間

那須塩原市は自然が豊かで樹木がたくさんあって、ドライブしていてもすごく気持ちが良くて。そんな自然に囲まれた生活がしたいと思っていました。そういった理想の暮らし方を実現できるような場所が妻の実家の近くにあり、ここに決めました。そしてこの雰囲気合う家をいろいろ探しました。住宅展示場等に足を運んだりもしました。

そうやって家を探す中で、ある住宅メーカーで家を建てた人たちのコミュニティと出会いました。アウトドアやキャンプが好きだったり、いろいろなものをDIYしたり、自分で直したり、そういう人が多いんです。私自身も、今後こんな風に生活がしたいなという想いも一致して、ここで楽しく暮らしていけるんじゃないかなと思い、今の家を選びました。



地域に溶け込みながら暮らす
適度なスローライフができるまち
仕事のメリハリも快適な新幹線通勤
だからこそ

那須塩原市は自然もたくさんあるのはもちろんですが、地域のみなさんも親切で地域の活動にも一生懸命。お祭りなどのイベントも多く賑わいもある。そういう場所だから居心地がいいのかなと思います。庭でキャンプもできちゃう。(笑)

また、那須塩原市はすごく便利なおとこらだと思えます。新幹線もとまるし、街中にいけばなんでもあるし、田舎暮らしもしたいけど、便利さも捨てられないという人にはちょうどいいまちだと思います。もっと田舎に行ってしまうと本当に大変だし、適度なスローライフができるまちです。

新幹線通勤はすごくいいです。本を読んだり、インスタ(グラム)をしたり、映画をみたり、自分の時間として使っています。

また、仕事のメリハリもつきますね。新幹線の時間が決まっていることで、計画的に仕事ができるようにもなりました。もちろんはじめは仕事が終わるかなと心配でした。会社や周りの理解が得られれば新幹線通勤は快適です。

田舎に住むということ
移住する前に五感で感じてみる

移住する前には、何度も足を運んでみることをお勧めします。街中を歩いてみたり、レンタカーを借りてあちこち回ってみたり。那須塩

原市は自然も多い分、場所によっては落ち葉の掃除などもたいへんですし、酪農をやっている人もいますので、匂いなどもあります。それは季節によっても日によっても異なるので、いろいろなタイミングで来てみるとよいかと思いますし、自分の五感で感じてみるのがいいと思います。

私自身はこれからもっと地域の中に入って行って、お祭りに参加したり、コミュニティに参加しながら、知り合いを増やしていきたいと思っています。



今、愛用のカメラ。

カメラは10年ほど前に趣味で撮っていて、その頃は、一眼レフを持って、いろいろなところに行き、風景や飛行機、本当にいろいろなものを撮っていたそうです。



wooper8787 <https://www.instagram.com/wooper8787/>

柳田さんの暮らしが見えるInstagramには、「那須塩原市の暮らしの魅力が満載」。

KATSUSHI HIZUME

樋爪 克至

SPECIAL INTERVIEW



富山県出身。奥様は那須塩原市出身。移住後、ボタニカルショップ「Dear,Folks & Flowers」を開業。アートラリーイベントを主宰。

暮らしを楽しみながら仕事ができるまち

暮らしにお花や植物に関するものを取り入れて欲しい
経験を形にした、
ボタニカルショップをオープン

2017年の4月にお店をオープンしました。

2年間ほど下積みとして、SHOZO COFFEEのレンタルスペースで期間限定ショップという形でやっていました。年に2~3回、3日間ずつ、お花と雑貨を販売する複合ショップです。

もともとニューヨークに留学をしていた時、いろいろな形態のお店を目にしました。例えばお花屋さんの中でコーヒーが飲めたり、雑貨屋さんと他のお店が混在していたり。そういった環境でたくさん影響を受け、そして日本に帰ってきた時に、日本にもそんなお店があったらいいなと思っていました。

「暮らしにお花や植物に関するものを取り入れていただく」がお

店のコンセプトです。一般的なお花屋さんでは生花や鉢物を扱うのですが、このショップでは、生花や鉢物だけでなくドライフラワーやお花にまつわる雑貨、アンティークな一点ものなど、お花と一緒に利用して暮らしの中に取り入れられるような商品を扱っています。



このまちに何か残したい アートラリーイベントを開催

このまちには様々な経験をされている方がいらっしゃるの、まちに出て、いろいろなお店を回ってスタッフの方と話をしているうちに、仲良くなったり、コミュニティができたりして仲間が増えていきました。

那須塩原は飲食やカフェの文化が発展してきているまちだと思います。そこにアートのものが加わることによって、さらにまちの魅力が増すのではないかと考えています。もともとアートスクールの出身なのでアートには昔から興味があり、このまちに何か残せないかなと思ってアートイベントを企画しました。

ギャラリー1店舗だけでやるのではなく、まち全体でお店を巡れるのをアートラリーっていうんですけど、そのような形で開催することによって、今まで立ち寄ったことのないお店にもアートを通して立ち寄ってもらえるのではと思い、企画しました。お店側にもメリットがあり、お客様にもアートを楽しんで回ってもらえるようなもので、これって東京とかでもあまりやってないんです。

以前はお店単体でイベントをやっていたのですが、業種柄、お花はいろいろなお店にも使っていただけて、どのお店の方とも仲良くしていただいたので、この企画のベースにもなっているのではと思います。



※小物などのインテリア雑貨も取り扱っています

オンとオフのメリハリがある このまち特有の暮らし方 暮らしを豊かにできるまち

暮らしを豊かにする。那須塩原市の暮らし方はかなり私の理想に近いものになっています。都会的な暮らしをしながら近くに自然がある。東京とか都会では体験できないような暮らしができています。

オフの時には、那須塩原にはやはり自然が多いのでリフレッシュするのに川の方にいったり、山の方に行ったりしています。仕事をするときには仕事をする、オフの時はしっかりオフというメリハリのある暮らしが、このまち特有の暮らし方かなと思います。



Dear,Folks & Flowers 那須塩原市高砂町6-5

インタビューをした場所は、SHOZO STREETにある樋爪さんのお店「Dear,Folks & Flowers」さん。

HISASHI YAMAYA

山谷 久

SPECIAL INTERVIEW



新潟県出身。自分たちらしい暮らしをするために、妻と共に移住先を探す。那須塩原の自然と人に魅力を感じ、東京より移住。東京への新幹線通勤を経て、現在は市内の企業(株式会社庫や)に勤務。

暮らしが中心にあるまち

毎日の暮らしを中心に据え
自分たちらしい
豊かな暮らしができる場所

那須塩原に移住する前は、東京に住んでいました。東京での生活は刺激があり楽しく過ごしていましたが、段々と違和感を覚えるようになりました。日々忙しく時間が流れていく中で、世の中にあふれる情報は、少ない余暇の時間をいかに有意義に過ごすか、特別な時間にするか、ということをお求めているように感じました。私たちは、余暇の時間を特別な時間にするのではなく、日々を豊かに過ごすことで、自分たちの暮らしをより良いものに出せないか、ということをお考え始めました。

また、子どもが生まれたことも大きな要因のひとつです。家族との生活が暮らしの中心になるにつれて、東京には、いまの自分たちにとって不必要なものが多いのではないかと感じるようになりました。

移住先を探すにあたって妻と話をすることで、ひとつイメージとして持っていたのは、フィンランドの景色です。三年ほど前に妻と共にフィンランドを訪れ、森の中で、コテージを借りて数日過ごしました。そこでは自然と人が別々ではなく、共にある、ということを感じました。都会にいと、なかなか自然は身近にはなく、それと触れ合うためには、時間をつくって遠くまで行かなければいけません。そうではなく、自分たちの日々の生活の中に、常に自然との関わりがあるということ、季節の移ろいを感じる、そういった暮らしをつくりたいと思いました。フィンランドで感じた気持ちが、那須塩原ならまた感じられるかもしれないと思い、移住をしました。

人と自然がともにあるまち
新幹線で通勤できることも
移住への後押しに

移住を考え始めてから、松本や仙台、札幌や旭川、東京近辺では鎌倉など、自分たちの気になるまちをいくつか訪れました。どれもとても素敵なまちでしたが、どこか自分たちの求める姿とは違うように感じました。最終的に那須塩原を訪れた際に、人と自然との距離感の近さや、住んでいる人たちが抱えている土地への愛着を感じ、ここならばと思い、移住先を決めました。

ただ、移住先として那須塩原に魅力を感じましたが、実際にどのように暮らしていけるかは未知数です。仕事を含めたすべてを一度に変えることには不安があります。そんな中で、那須塩原の立地条件も現実的な課題を解決する上で重要な点でした。那須塩原駅から東京までは新幹線で一時間ちょっとですから、仕事は東京のまま、暮らす拠点だけを先に変えるということが出来ました。

新幹線通勤は都内の電車通勤とは違い、自分の席が確保出来ますので、周囲を気にせず読書や仕事をする事が出来ます。那須塩原駅から東京までは約70分ですが、時間も長すぎもせず、私の場合はあまり負担にはならず、有意義に過ごすことが出来ました。

新幹線通勤の金銭的な負担については、家賃と合わせて考えました。通勤費の内、新幹線の特急券代は自己負担だったのでその

分の支出はありましたが、一方、東京と比べると家賃はおよそ半分程度ですので、合わせて考えると経済的な負担はあまり変わりません。また、那須塩原市から新幹線定期券購入補助もあります。居住環境については東京で借りていた部屋の倍の広さになりましたし、窓からは山や林が見え、自然を近くに感じられます。

「同じまちに住む人同士」という感覚で
移住者に対してもオープン
自分の可能性を探っていく

引越してしてから、妻と子どもと一緒に那須塩原のいろいろなお店に行き、東京から引越してきました、とご挨拶をさせてもらいました。那須塩原は移住されてきた方が多いからか、移住者に対してとても優しく、オープンな雰囲気があります。都会でお店の人に自己紹介することはあまりないかもしれませんが、そういったことをしても不自然ではない雰囲気があります。もちろんはじめはお店の方とお客という関係ですが、何度か通う内に、同じまちに住んでいる人同士とお話をしてくれる様な気がします。そこから、こういう人も気が合うかもね、と紹介してもらい、段々と人の繋がりが増えていきました。

そうやって繋がっていく中で、自分で何かやってみたら、とか、将来何をしたいの、と聞いてくれて、後押ししてくれる人と多く出会いました。保守的ではなく、いろいろな可能性に対してオープンな方が多く、価値観の多様性が受け入れられるまちだと思います。そういった雰囲気のおかげで、自由に自分の発想を広げられる気がします。那須塩原は、自分の可能性を探ることのできるまちだと思います。



※愛用している名刺入れは、黒磯にある革製品のお店「NordFeld」さんのもの。



株式会社庫や 那須塩原市下田野532-171 TEL. 0287-35-4608

インタビューをした場所は、山谷さんが務める「CHEESE GARDEN」などを運営している、「株式会社庫や」のオフィス。

TOMOMI WATANABE

渡邊 智美

SPECIAL INTERVIEW



那須塩原市出身。ヨガインストラクター。産前産後の不調の経験から「ママのためのクラス」も充実させ女性のライフスタイルにあったヨガを提供中。我が子との写真を撮るのが好きな2児の母。

自分に戻れるまち

自分一人の時間も楽しめて
自分を解放できるヨガ
新幹線で通いながら講座を受講し
インストラクターへ

初めてヨガを体験したのは12年前です。何か習い事をしようと思って
いた時、友人がやっていたヨガとフラダンスを両方体験したんですね。
その時、ヨガを体験して感じたことは、みんなでやるんですけど、自分ひ
とりの時間を楽しめるということ。ひとりになってすごく気持ちよかった、
解放されたという経験に感動したことが始めたきっかけです。

実は今でもそうなのですが、ヨガを仕事にしようとは思っていな
かったんです。定期的にヨガを続けてきて3、4年たった頃に、「東京
のヨガはどんな感じなんだろう、どんな講座があるのだろうか」とイ
ンターネットで探していたところ、この辺りでは聞いたことがなかった
「陰ヨガ」という種類のヨガがあるのを知って、ドキドキしながら受け

に行っただけです。その時に身体の解放だけでなく心の解放をたっ
た1回だけで経験でき、この「陰ヨガ」って何だろうって興味を持った
んです。今まで習ってきたヨガとは対極にある感じがしました。そして
自分のために勉強してみたくなりました。それが講師養成講座を
受けるきっかけでした。その陰ヨガを勉強していく中で、那須塩原で
ヨガをやっていた仲間に「陰ヨガ」の話したら、「教えて」と言われ
て、当初はお金ももらわずに、自分の知っている知識を話していた
んです。そのうちに、教えてもらいたいという人が増えて、たくさんの
サポートがあって今があります。

「陰ヨガ」の養成講座は5日間だったので、東京に泊まったので
すが、他にも200時間の講師養成講座を受講しました。それは6ヶ月
間、新幹線で通っていました。

東京までは1時間ちょっとなので、今月にも2、3回は東京まで行っ
て勉強しています。そんな近いところにヨガを学べる場所があって、
那須塩原市に住んでいて本当によかったと実感をしています。

私の役割は人と人をつなぐこと
その輪が広がって
今のヨガ教室がある

私のヨガ教室はコミュニティづくりの場にもなっているのかなと思
うんです。初めてヨガ教室に来てくださる人には移住者の方も多く
て、友達を作りたいとか知り合いを作りたいという理由で参加してく
ださる方もいます。ヨガをした後って心も身体も解放されて、「素の自
分」で話せる空気感があるんです。ヨガを通して、年齢も幅広く、妊娠
中の方も、産後の方も、そうでない方も、たくさんの人たちとつなが
っていく、そういう意味では、私自身も人と人をつなぐ役割を果たして
いるのかなと思います。

人と人がつながる安心感。自分らしい生き方をする上でも周り
のサポートはすごく重要ですね。

私の場合は、自宅で少人数で行ったり、公民館を借りるなどして、
少しずつできることをやっていったら、いつの間にかそこに入れな
い人ができて、このスタジオができたんです。なので、いきなりお店を
持つとか開業するとかではなく、身近な人に提供できることを少しづ
つ始めるのがよいのではと思います。家でお友達を呼んでやってみ
るとか、会社勤めでも休日に友達を集めて何か提供してみるとか、
そんなところから始めるのがベストなのではと思います。

私の場合も友達が友達を呼んでできてくれて、小さなつながりがど
んどん大きくなって、形になっていったんです。小さな1歩でも大きな
成果につながるのを実感しています。

子どもを産んでから気が付いた
人の優しさがあふれるまちと
ほどよい距離感の心地よさ

東京に住んでいた頃はどうしても表面的なつながりが多く、深いと
ころで本当の悩みを打ち明けられるとか、この人たちの前だったら

泣いてもいいやというように自分を解放できる空間が持てなくて、仕
事と家を行き来するだけの生活でした。家は寝に帰るだけ。「私は何
のために生きているんだろう」とふと思ったこともありました。この生
活、10年後は続けていきたいくないなと思って、那須塩原に戻ってき
ました。

那須塩原市は自然を感じられたり季節を感じられたりして、「自分
に戻れる」時間がたくさんあるんです。

さらに、人のよさを感じています。困っているときは親身に助けてく
れるし、だからといって干渉しすぎない。よい距離感で接してくれ
るし、ほんと温かいんです。特に子どもを産んでからは、なおさらそう
感じています。お店に行っても親切だし、周りのお母さんたちも親切
で、子どもを産んでから特に那須塩原市に住んでよかった、帰って来
てよかったと実感しています。



EARTH YOGA STUDIO 那須塩原市中央2-22 3階 TEL. 050-3631-2889
インタビューした場所は、渡邊さんが働く「EARTH YOGA STUDIO」

SHO HIRAYAMA

平山 翔

SPECIAL INTERVIEW



那須塩原市出身。30歳までには自分のお店を持ちたいという夢を持ち、カフェに勤めながら、パン作りを学ぶ。市内の人気ベーカリーの立ち上げに関わり、パン職人として働いた後、30歳を機に独立。ショウパンアルティザンベイクハウス店主。

夢のために一歩踏み出せるまち

職人から直接買える店
お店全体で美味しさを表現

“パン職人から直接パンを買えるパン工房”がコンセプトです。売り場やパンの並んでいるところと、パンを作っているところの距離をできるだけ近くしたお店になっています。お酒の蔵元って、その作っている銘柄を作り手から直接買えるじゃないですか。そんな感じで、フレンドリーな雰囲気ができるようにお店作りをしています。

記憶に残る美味しさは味だけではなく、お店全体を含めてなんだと思っています。お店のスタッフ、雰囲気、空気感など、それらを含めて美味しさなんです。



※パンだけでなくケーキなどのスイーツも好評です

夢を仕事にすること
周りの後押しが一歩踏み出す勇気に

最初はカフェがやりたくて、高校を卒業して一般の企業に務めて2年間お金をためて、シアトルにいきました。ニューヨークやロスなどにも行って、気づいたんです。カフェだけじゃなくて、パン屋も廻っている。それはアメリカだけじゃなくて、青春18きっぷなどで日本縦断したときも気づいたらカフェだけじゃなくパン屋も廻っていたんです。

そして地元に戻ってきて、カフェをやりたいかったので、SHOZO COFFEEさんに勤めて、コーヒー淹れたりケーキを作ったりしていました。そのころ趣味でパンを作っていて、しばらくして本格的にパンを作りたいと思ったんです。そして長野のパン屋さんに勤めました。23歳のころだったと思います。

1年後、再び那須塩原に戻ってきました。縁あって再びSHOZOさんに勤めました。その後、パン屋の立ち上げの話があって、そこでパンを作るようになったんです。そして30歳を機に独立をしました。

僕自身、お店を出す、一歩踏み出すことにはものすごく不安を感じていました。でも、周りは「きっと大丈夫」「買いにいよいよ」と後押しをしてくれました。最初の一歩を踏み出すと、次の一歩につながってどんどん広がっていきました。

職人が一つ一つ手作りで作っている
“クラフトベーカリー”を知ってもらいたい
パンを通して日本の魅力を世界に

この場所に決めたのは、一番目に付きやすいところでやりたかったからです。それは、売上をあげるためじゃなく、なるべく多くの人にこの“クラフトベーカリー”を知ってもらいたかったから。しかも職人が手作りで作っているパン工房の存在を多くの人に気づいてもらいたかった。なるべく大きな交差点の近くで、目立つ場所を探したところここを見つけました。

世界を夢見てます。このお店のフランス店を出しますとかではなく、日本のいいところ、栃木のいいところをパンを通して世界に発信をしていくのが大きな目標です。海外に行くのが好きなので、ヨーロッパやアメリカ、アジアなどに出向いて職人さんとパンを通して交流できたらいいというのが夢です。

そして日本のパンを作りたいと思っています。日本の素材を使った新しいパン。たぶん海外の人たちが思う日本のパンって、アンパン、メロンパン、カレーパンのようなものだと思うんですけど、そうではなくて、日本特有の素材、例えば酒粕とか、そういったものを使った新しいパンを作りたいと思っています。

※クラフトベーカリーとは、職人が手間を惜みず素材や製法にこだわり、一から丁寧にパンを作っているパン屋のこと。



SHŌPAIN ARTISAN BAKEHOUSE 那須塩原市西三島3丁目183-276 TEL. 0287-48-7707
インタビューをした場所は、平山さんが経営する「ショウパンアルティザンベイクハウス」さん。

SHOICHI TSUKUI

津久井 勝一

SPECIAL INTERVIEW



那須塩原市出身。大学卒業後、東京でデザイナーとして就職。子育てを機に那須塩原にUターン。2018年6月、先代の味をそのまま提供したいと肉の惣菜店「黒磯ブロイラー」を復活させた。

お互いに助け合い応援できるまち

いつでも戻れる距離感

戻ってきたいばんのきっかけは
やっぱり子育て

東京にいる時は、いつでも戻って来られる近さだと感じていました。東京から戻ってくる時は寂しさもあったんですけど、東京の友人たちが気軽に遊びにきたりできる近さなので、寂しくはないです。また遊びに来た時に連れて行ける個性なお店もたくさんあって、友人たちにも楽しんでもらえるのはとてもうれしいことです。

那須塩原に戻ってきたいばんのきっかけは、やっぱり子育てです。那須塩原市で子育てがしたかった。自然も多いし、素敵なお店も次々にできていて、とても魅力的なまちだと思ったからです。

ゆっくり生活すること
バランスがとれたまち那須塩原

那須塩原市は、ここ数年で面白いお店や個性なお店、魅力的なお店が増えてきています。休日などはドライブしながら、あちこち散歩をしてそんなお店に出かけています。

Uターンしてきて感じていることは、ゆっくり生活ができているなど。そして単純に早寝早起きができています。

大型店など都市部もしっかりしていますし、少し車を走らせれば大自然もあり、子育てもしやすいし、バランスがとれたまちだと思います。

同級生も結構な割合で戻ってきています。農業している人もいますし、企業に就職している人もいます。

地域を活気づかせたい
お互いに助けたり応援したり…
若者も頑張りやすい環境

このまちには、教えてくれる人がたくさんいらっしゃるんです。何か新しいことをやろうとしたときに、誰かが誰かを連れてきてくれて解決することも多いんです。お店をオープンしたころ天井が雨漏りしていたときのこと、ちょうどお店にお客様として来ていた駅前の方が、知り合いの大工さんを紹介してくれて、あっという間に対応してくださったんです。

お店の経営者として感じていることですが、オーナーさん同士の横のつながりがとても強くて、お互いに助けたりとか応援しあったりしています。歳も近くて同年代が頑張っていて、そういう意味でも頑張りやすいまちだと思います。

私自身はこのお店の周りを活気づけていけたらと思っています。お店が並んでいるところからこの辺りは少し離れているので、この辺りにもお店を出していただいて、新しいコミュニティ作りをしていきたいと思っています。



黒磯ブロイラー 那須塩原市本郷町1-11 TEL. 0287-63-3118

インタビューをした場所は、津久井さんのお店「黒磯ブロイラー」さん。

春

Spring



5月 妙雲寺ぼたん祭り
妙雲寺の境内を彩る約3,000株の牡丹を愛でるイベント。



3月 三本木の獅子舞
疫病退散祈願のために奉納される獅子舞。



10月 那須野巻狩まつり
源頼朝が、那須野が原で行った大規模な狩りにちなんだ祭り。



10月 産業文化祭
会場には文化や芸術、福祉など100を超えるブースが展覧。

秋

Autumn



4月 溪流釣り
塩原温泉街を流れる箒川で溪流釣りが解禁。



4月中旬から5月中旬
板室温泉街、那珂川の上に色とりどりのこいのぼり約100匹が泳ぐ姿が見られる。



11月 那須塩原ハーフマラソン
ハーフのほか5kmと1kmランウォークの部がある。



9月 塩原温泉まつり
6台の山車が温泉街を練り歩く勇壮な祭り。

那須塩原の四季

那須塩原には、四季を通して暮らしと五感を彩るイベントがたくさんあります。春夏秋冬、自然の変化に合わせたまちのイベントをご紹介します。



8月 アウトドアアクティビティ
塩原渓谷をフィールドにキャニオニングやカヤックなどのアウトドアを満喫。



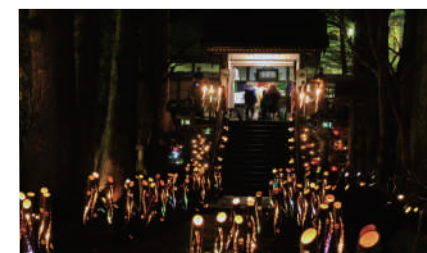
6月 黒磯駅前キャンドルナイト
キャンドルの優しい光がまちを包むイベント。



8月 那須野ふるさと花火大会
隔年で開催される夏の風物詩。



1月 黒磯初市
黒磯駅周辺で開催される新春の恒例行事



12月 塩原温泉竹取物語
12月から2月にかけて 温泉街に約1,000本もの竹灯籠が並ぶ。



1月 板室温泉三大祈願祭
1月から3月にかけて三大祈願所のお札が温泉の湯口に備えられる。

夏

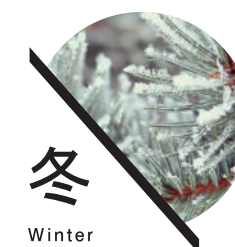
Summer



7月 西那須野ふれあいまつり
JR西那須野駅西口を会場にさまざまなイベントを開催。

冬

Winter



2月 スノーシュー
塩原温泉ビジターセンターがこの時期にイベントを開催。